

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果をふまえて

朝来市立竹田小学校

「令和3年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について学校で分析し、6年生の子どもたち全体の学びにおける成果と課題をまとめましたのでお知らせします。

国語：県・全国平均と同等である

- 言葉の意味をきちんと理解できている子が多く、全体によく力がついています。
 - メモを取るときに、大事な言葉やキーワードを見つける力、順序良く説明をするための作戦（順序を表す言葉を使う・段落構成を考える等）が理解できしており、話の要点をつかむ力の育ちが見取れます。
- △漢字を書く力に課題が見られました。「習った漢字は使う」を意識して、普段から力をつけていきたいです。
- △主語と述語の関係をつかむことが難しかったようです。主語を書いていない文を記したことで不正解となった答えも多くみられました。「主語とは?」「述語とは?」もう一度学びを確かめる必要があります。

算数：県・全国平均と同等である

- 三角形の面積を求めるために必要な「底辺」「高さ」とは何か説明すること、また面積を求める公式を理解し使うことといった基礎的な問題を確実に解く力がついています。全国平均と比べ、大変良い結果が出ています。
 - 「問題の解き方を説明すること」がよくできています。無解答（何も書いていない）が1人もなく、最後まで問題と向き合おうとする粘り強さも見取れました。
- △答えが小数や分数になると、「本当に正しいのかな?」と不安になるからか、なんとか整数の答えを導きだそうとする傾向がありました。「何を求めるのか」「何を答えたらよいのか」問題の意味を考えたり、単位が正しいか確認したりする力をつける必要があります。
- △説明するときに、言葉が足りなかったり、条件を満たさなかったりする文で答えている解答があります。自分の書いた説明は条件を満たしているか分かりやすいものか、読み直して書き加えたり、書き直したりする力をつけたいです。

児童質問紙から見られた傾向

○全国・県平均と比べて、竹田っ子は「友達の話や意見を最後まで聞く」こと、「友達と話し合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりできている」「友達の考えと自分の考えの似ているところや違うところを見つけ、さらに自分の考えをまとめること」がよくできています。仲間とともに学ぶ「学び合い」によって、一人一人が自分の学びを充実したものにしていることが見取れます。

△県・全国平均と比較して、毎日 2時間以上ゲームをしている子が多いことが気になります。毎日読書(参考書やマンガ、雑誌は含まない)をする時間が30分未満の児童も多く、本を読めていないことがうかがえます。長時間の動画視聴やゲームを見直すことは子どもだけでは難しいものです。今一度「ネットとゲームのルール作り」に取り組むなど、家族みんなで考える機会としてください。

まとめ

○国語・算数ともにわずかではありますが、これまでより学力の伸びが見られました。特に算数については「学び合い」の学習による成果が表れています。

○県・全国平均・これまでと比較しても、無回答率が低いことから、児童の「学びに向かう力」が身についていると考えられます。

○学校生活においても、日々「友達の考えを受け止め、良さを見出す力」「自分の考えを伝え表現しようとする力」の成長を感じる6年生です。切磋琢磨しながら学べる環境を自分たちで創り出せていることが「伸び」につながっていると受け止めています。

※ この結果を踏まえ学校でも引き続き「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、児童の課題と向き合った授業改善を進めてまいります。